

○ 眼の水晶体の等価線量が10mSv/年を超える放射線技師は認められない。

【 眼の水晶体の等価線量分布 (放射線技師、主要な診療科目別) 】

水晶体線量 mSv/年	核医学	PET	血管撮影	MRI	TV室	放射線治療	CT	一般撮影
ND	2.2%	6.4%	9.6%	27.1%	26.6%	30.5%	15.4%	7.7%
2.5以下	97.7%	93.5%	90.1%	72.6%	73.3%	69.2%	82.4%	91.6%
2.5超～ 5以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	1.4%	0.5%
5超～ 10以下	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
10超	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人数	135	155	499	622	60	406	879	3657
20超	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※ 眼の水晶体の等価線量は、均等被ばくの場合には胸部（又は腹部）、不均等被ばくの場合には頭頸部に装着した線量計の1cm又は70μm線量当量の適切な方で評価しているが、防護眼鏡等による遮蔽効果は考慮していない。

注：全国17か所の医療機関（国立病院機構関連施設）放射線技師6,413人を対象として調査した結果

藤淵 俊王、藤田克也、五十嵐 隆元、西丸 英治、堀田昇吾、桜井 礼子、小野 孝二
日本放射線技術学会学術調査研究班による調査（2018年秋季日本放射線技術学会秋季学術大会発表）

○ 比較的線量は少ないが血管造影、一般撮影、X線CT検査では検査数、介助数の多い施設は20mSvを超える可能性がある。

【 眼の水晶体の等価線量分布（診療放射線技師、主要な担当業務別） 】

水晶体線量 mSv/月	核医学	PET	血管撮影	MRI	TV室	放射線治療	CT	一般撮影
ND	2.2%	6.4%	9.6%	27.1%	26.6%	30.5%	15.4%	7.7%
2.5以下	97.7%	93.5%	90.1%	72.6%	73.3%	69.2%	82.4%	91.6%
2.5超～ 5以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	1.4%	0.5%
5超～ 10以下	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
10超	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人数	135	155	499	622	60	406	879	3657

※ 眼の水晶体の等価線量は、均等被ばくの場合には胸部（又は腹部）、不均等被ばくの場合には頭頸部に装着した線量計の1cm又は70μm線量当量の適切な方で評価しているが、防護眼鏡等による遮蔽効果は考慮していない。

※ 月間2.5mSv超の値の出たセルを赤枠で囲んでおり、毎月の線量が1.7mSvであれば年間20mSvに達する。

※ 途中でのローテーションがあり、月毎の主担当業務で集計しているため、単純に12倍したものが年間の線量とはならない。

注：全国17か所の医療機関（国立病院機構関連施設）を対象として調査した結果

※ 調査期間は3年間で用いたデータは個人の各月のデータ（延べ6,413件（診療放射線技師6,413人・月））

➤ 従事する業務は、月毎で最も被ばくしたと思われる業務を施設の調査担当者が入力

➤ 各担当業務の人数は、3年間の月毎に報告された主担当業務の延べ人数

➤ MRIでの622名は、調査期間の3年間のうち、MRIを主担当とした月の延べ人数

➤ 当直や他の部門の兼務もあり、個人線量計が支給されている

➤ 日中業務がMRIで、当直やヘルプ等でX線撮影等の業務をし、その際に被ばくした可能性がある